

X

(同意可)

(3 X · Y 各完答)

(同意可)

「私は明日二十歳になる」という事柄は

(同意可)

$$\frac{5}{I}$$

① (漢字)

トレーニングテキストNo.21から六年生配当漢字の範囲に入っているので、これまで以上に漢字の細部にも気を配って書いてほしい。漢字の練習をする際、普段使わないような言葉が出てきたら必ず意味調べをして、言葉と意味をセットで覚えておこう。

② (三字熟語・四字熟語)

③ 以外はその部分の字を特定の別字と間違えやすいものである。「救主」「不可決」「異句同音」「一朝一石」のように書いてはいけない。また、③のような「〇〇的」という三字熟語は読解においても重要なので、意味も確実につかんでおこう。間違えたものは単に何回か書くだけでなく、言葉の意味と使われている漢字を結びつけて覚えていくこと。

③ (ことわざ・故事成語)

ことわざ・故事成語に限らず、語句は意味とセットで覚えていくことが大切である。

④

1 筆者が、娘と藤を「不釣り合い」だと感じたのは「藤の金額の高さ」がポイントだった。文章中のことばを使って答えを作れたはずである。単に「高価」と書くだけでは、字数は二十字に届かないので、他にも使える表現をさがそう。

2 A：娘は喜んでいた↓A↓父はふきげんになったという流れであり、逆接の「ところが」が入る。B：「好む草なり木なりを買ってやれ、といいつけたのは自分だ」↓B↓「自分用の小銭入れを渡してやった」という流れであり、順接の「だから」が適当である。C：筆者の親のいいつけ、子の選択を無にする浅はかな心への「――」↓C↓子の心の養いを考えないという「――」の流れであり、付加(添加)の「しかも」が入る。

3 X：父のいいつけとは何であったか。Xの前後とのつながりにも注意したい。Y：「処置」という表現は通読時、どこかになかったか。字数のみにたよってでは時間がかかる。場所の見当をつけたうえで、答えとなるとところをさがしはじめよう。

4 暗示とはそれとなく知らせることである。「山椒」を通して、筆者が読者に伝えようとしていることは何か。「高い香気」「鋭い味」「容赦なく刺した」という表現からイメージをつかもう。

5 「山椒」を娘に買うことによって結果的に、筆者は父に、親として子になすべき事を教えられたのである。

6 ◎は、ようするに「高価である」ということを示す一文である。アだと何が高価なのかかわからないし、ウ・エは藤よりも安値の「山椒」のことが書かれているところなので不適当である。

⑤

1 時間の経過を示す、つまり時の流れを感じさせるような表現をさがす。通読時、三度「除夜の鐘」が使われていたことに気づいただろうか。

2 「ハルさん」が「後先考え」ずにやってしまったことは何か。――線①前後の「ハルさん」と「僕」のやりとりに注目して、答えをさがそう。

3 ――線②の直後をまとめれば良い。容易な記述であるからこそ、わかりやすい説明を心がけたい。「誰」が「何」を「どうした」のかがわかるように答えを組み立てよう。

4 「追伸」にある、「わたしも……」に注意しよう。この追伸は「ハルさん」が「僕」に対して書いたものであるのでア・イは不適当である。そして、エの「執念」は言いすぎであろう。

5 「僕」はここで、本当の母親ではないはずの「ハルさん」のことを「お母ちゃん」と呼んでいる。母の日記を書き写してくれていたこと、そして「追伸」に込められた「ハルさん」の思いを受け取った上で「お母ちゃん」と認めたのである。

⑥

1 「このように」とあるので前の内容をふまえて答えればよい。「中国語には時制がない」「英語であれば、現在・過去・未来の時制があるだけではなくて、現在完了・過去完了・未来完了という時制もあります」「フランス語にしても、現在完了がないだけで、あとは英語と同じだけの時制をもっています」という内容をまとめると「どんな時制があるのかは、言語によって違う」となる。

2 アは「ゝている」と言いかえられる「存続」の意味。イは「今月末までに」とあるので過去ではないことがわかる。ウは「昨年の秋」、エは「きのう」ということから「過去」であることがわかる。

3 次の段落に「だろう」が「推量」を表すことばであるという説明がある。それは「確実に起きるとは限らない」事柄についていうことばである。

4 直前に『私は明日二十歳になる』のように、絶対に起きるとわかっているものだったら」とある。この「事柄の説明」と「だろう」がどういう事柄に使う、どういう意味のことばかを結びつけて説明すればよい。

5 「適当ではないもの」を選ぶことに注意しよう。エの説明の「必ず現在を表し」というのは、未来を表す場合もあるので合わない。

以上